No. 113 May 2021

AAINews

人と農と環境をつなぐ技術を考える

国際耕種株式会社
〒194-0013
東京都町田市原町田 1-2-3
アーベイン平本 403
tel　042-725-6250
fax　042-785-4332
mail aai@koushu.co.jp
URL www.koushu.co.jp

イスラマバード再渡航
-新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急退避から 1 年-

2020 年 3 月に新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、イスラマバードを退避してから、「パキスタン国バロチスタン州農業普及員能力向上プロジェクト」の活動は、国内からの遠隔運営となっていたが、約 1 年ぶりとなる 3 月上旬に、イスラマバードに渡航した。出発地の成田空港や中継地のドーハ空港は以前に比べ、人が少ないようだったが、ドーハ発イスラマバード行きの機内は、ほぼ満席で、航空便が少なくなっている中、どうしても移動しなければならないパキスタン人が、数少ない便に殺到しているのだろうと感じた。

久しぶりに見るイスラマバードの街は、1 年前とくらべ、人通りも車の渋滞も縮小した様子はなく、マーケットには見慣れた露店が並び、行きつけのスーパーやパン屋の品ぞろえも変わりなかった。もちろん、以前とは異なり、多くの人がマスクをしていたり、ホテルに入るときなどには検温するという、感染拡大予防策が取られていることは大きな変化ではあるが、世界中で起こっているそのような変化よりも、変わらぬ街並みの方が印象的であった。

プロジェクト事務所のある国立農業研究センターでは、この一年間、現地でプロジェクトを支えてくれた C/P や、現地スタッフに再会することができた。困難な状況の中で、プロジェクトを支えてくれた彼らとは、パキスタン流に抱擁をし、肩をたたき、再会を喜びあうのが普通であるが、今回は、お互いに密接を避け、少し距離を取って挨拶を交わした。マスクをしていては、微笑んだ口元さえ見えないが、皆こうした習慣にも慣れているようであった。

C/P や現地スタッフと話していると感染予防の「新しい日常」が定着している反面、新型コロナウイルスの感染状況に「慣れ」も生じており、特に、普及員の活動する農村部では、新型コロナに対する警戒心は薄く、マスクをする人も少ないという話であった。その一方で、昨年 8 月頃に新型コロナウイルスに感染し、立って歩けないほどに辛い思いをしたという C/P もいて、確実に感染のリスクが身近にあるということも感じた。

我々の渡航した 2021 年 3 月は、パキスタン国内の感染者数はやや落ち着いてきている状況であった。レストランでは「3 密」を避けるため、室内での食事が禁じられているので、街では夜になるとレストランの外に並べられたテーブルに多くの客が集まり、かえって賑やかな様子に見えた。これまで自粛していた結婚式を挙行する人も多くなったようで、賑やかな音楽がホテルの部屋まで、聞こえてくることもあった。人々が感染予防のための「新しい生活様式」を受け入れながらも、家族や友人たちとの絆を大事にする本来の生活様式に近い形を模索している姿だろうと思った。

この 1 年間、遠隔でのプロジェクト運営を支えたのは、現場で一緒に働いてきた C/P やプロジェクトスタッフと信頼関係であった。実際に会って、時と場所を共有すると通じ合うものは多く、今回の短い渡航期間に、プロジェクトにかかわる人たちに直接会えたことは貴重な機会だったが、一方で、会えない時こそ絆を大切にする気持ちが必要だろうとも思う。

CP 機関へのプロジェクト進捗報告の様子